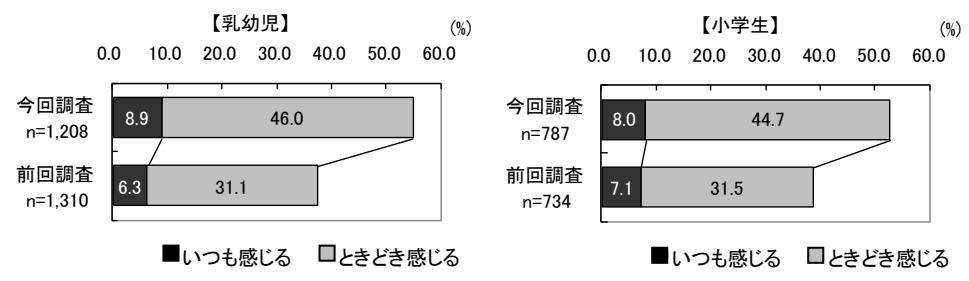


墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 墨田区青少年の生活等に関する調査 集計結果報告書 概要版

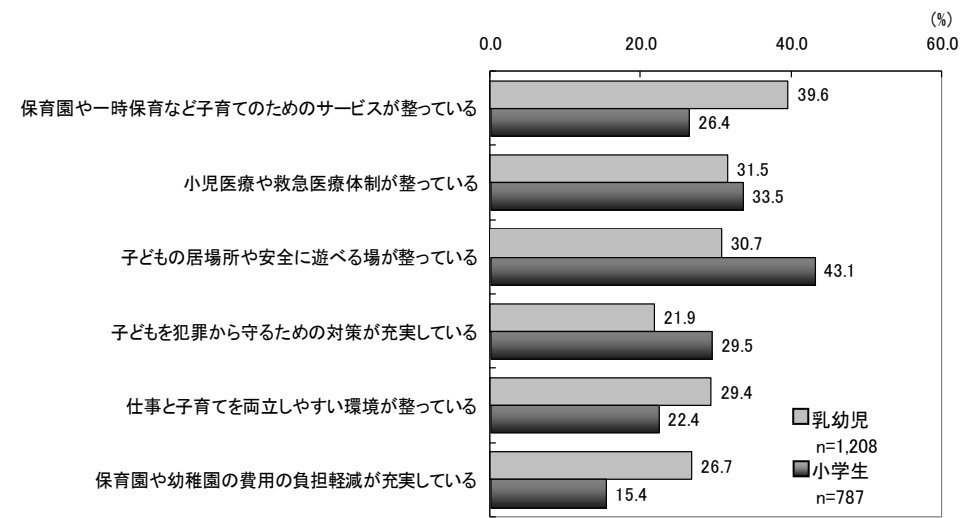
○ “子育てに自信が持てない”

について、乳幼児では「いつも感じる」(8.9%)と「ときどき感じる」(46.0%)を合わせると54.9%と半数を超えています。前回調査では「いつも感じる」(6.3%)と「ときどき感じる」(31.1%)を合わせると37.4%で、今回調査では自信が持てない方が増加しています。小学生も同様です。



墨田区の子育て環境に求めるもの (乳幼児・小学生)

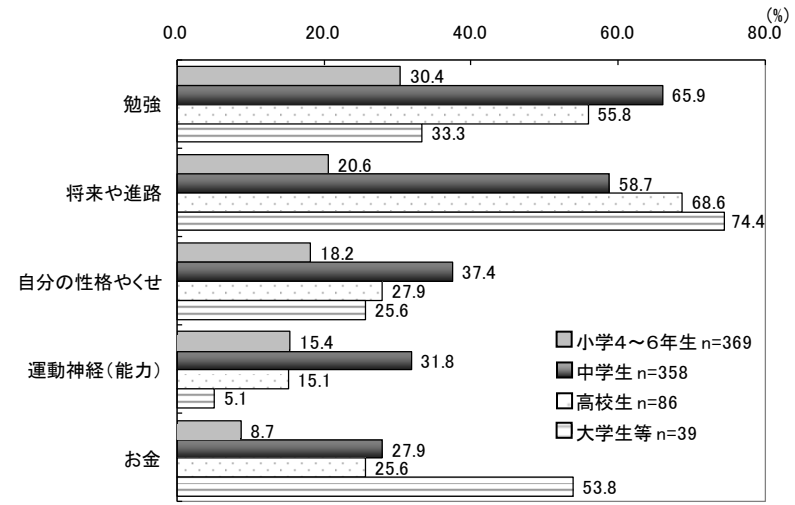
○乳幼児で重要だと思うのは、「保育園や一時保育など子育てのためのサービスが整っている」(39.6%)が最も多く(前回調査では3位)、「小児医療や救急医療体制が整っている」が31.5%(前回調査では1位)、「子どもの居場所や安全に遊べる場が整っている」が30.7%(前回調査では2位)などとなり、「保育園や一時保育など子育てのためのサービス」のニーズが高まりました。小学生では、「子どもの居場所や安全に遊べる場が整っている」(43.1%)が最も多く(前回調査では2位)、「小児医療や救急医療体制が整っている」が33.5%(前回調査では1位)、「子どもを犯罪から守るための対策が充実している」が29.5%(前回調査では3位)などとなり、前回調査の1位と2位が入れ替わりしました。



6 小学4～6年生の本人回答調査と成人前調査の結果概要

なやみや心配ごと

○小学4～6年生では「勉強」が30.4%と最も多く、「将来や進路」(20.6%)、「自分の性格やくせ」(18.2%)、「運動神経(能力)」(15.4%)の順です。中学生は「勉強」が65.9%と最も多く、「将来や進路」(58.7%)、「自分の性格やくせ」(37.4%)、「運動神経(能力)」(31.8%)を上回っています。大学生等では「将来や進路」が74.4%と最も多く、「お金」が53.8%で第2位となっています。



相談する相手

○小学4～6年生は「母親」が68.6%と圧倒的多数で、「友だち」(33.9%)、「父親」(31.2%)を大きく上回っています。中学生は「友だち」(49.2%)が最も多く、「母親」(44.1%)、「父親」(16.8%)の順、高校生は「友だち」(58.1%)、「母親」(46.5%)、「学校の先生」(16.3%)の順、大学生等は「友だち」(82.1%)が圧倒的多数で、「母親」(59.0%)、「父親」(28.2%)の順となっています。一方、「誰にも相談しない」は中学生で18.2%、大学生等で5.1%ですが、高校生では23.3%と多くなっています。

1 調査の目的

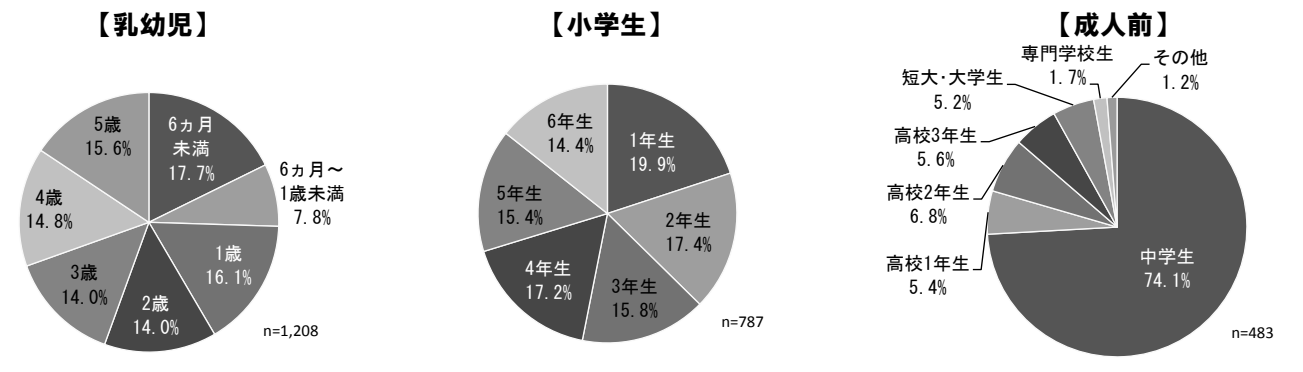
平成27年度における「子ども・子育て支援新制度」の開始に向けた「(仮称)墨田区子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたり、教育・保育事業の利用状況や、地域子育て支援の充実などをはじめとした、今後の区の子育て施策等に関して区民の意見・要望を把握するため調査を実施しました。

2 調査の種類と実施方法等 ※調査期間：平成25年10月18日～11月8日

調査の種類	対象者	抽出方法	実施方法	配布数	有効回収数	有効回収率
乳幼児調査	乳幼児の保護者	平成25年10月1日現在の住民基本台帳から年齢別に層化し無作為抽出	郵送により配布・回収	2,000	1,220	61.0%
小学生調査	小学生(1～6年生)の保護者(4～6年生の本人含む)	区内各中学校から学級抽出(抽出学級は学校へ依頼)	学校を通じて配布・回収	393	358	91.1%
成人前調査	中学生(2年生) 高校生等	平成25年10月1日現在の住民基本台帳から年齢別に層化し無作為抽出	郵送により配布・回収	300	125	41.7%
総計				4,193	2,504	59.7%

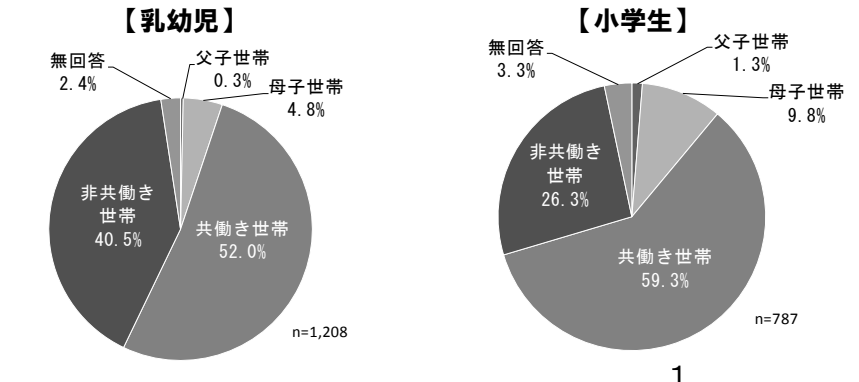
※年齢が無回答あるいは不適当な回答数は除いて集計しているため、乳幼児調査は1,208、小学生調査は787を全体数として集計しています。成人前調査については不適当な回答はなく、有効回収数483を全体数として集計しています。

3 年齢(乳幼児)・学年(小学生・成人前)



4 家族の状況

○保護者の状況と父母の就労状況で類型化すると、乳幼児では「共働き世帯」が52.0%、「非共働き世帯」が40.5%、父子家庭が0.3%、母子家庭が4.8%です。小学生では「共働き世帯」が59.3%、「非共働き世帯」が26.3%、父子家庭が1.3%、母子家庭が9.8%となっています。

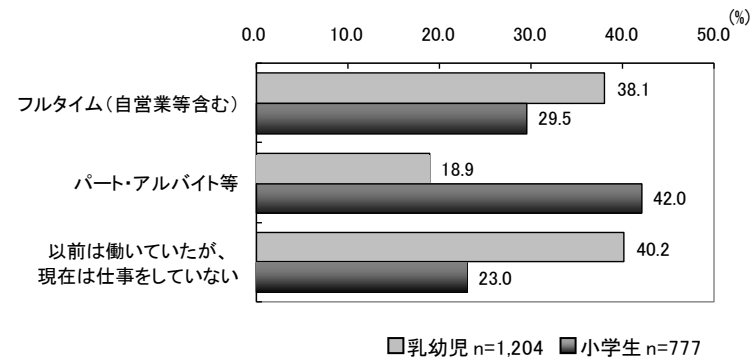


5 乳幼児調査・小学生調査の結果概要

母親の就労状況

○乳幼児では母親（ひとり親含む）について、「フルタイム（自営業等含む）」が26.7%、「フルタイム（現在産休・育休・介護休業中）」が11.4%で、両者を合わせた“フルタイム”は38.1%です。また「パート・アルバイト等」が17.6%、「パート・アルバイト等（現在産休・育休・介護休業中）」が1.3%で、両者を合わせた“パート・アルバイト等”は18.9%です。“就労している母親”は57.0%で前回調査（49.6%）を上回りました。

○小学生では“フルタイム”29.5%、“パート・アルバイト等”が42.0%で“就労している母親”は71.5%にのぼり、前回調査（67.6%）を上回りました。



教育・保育の利用状況と希望（乳幼児）

○教育・保育事業の利用者737人を保護者の就労状況でみると、共働き世帯は「公立認可保育園」47.7%、「私立認可保育園」28.1%、「認証保育所」が8.7%などで、非共働き世帯では「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が85.4%を占めています。

○回答者全員1,208人の第1希望は、「認可保育園」が41.3%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が32.0%、「認定こども園」が11.8%、「幼稚園の預かり保育」が6.1%などです。

○現状の利用と比較すると、共働き世帯では「認定こども園」が0.2%→13.1%へ増加、非共働き世帯では「認可保育園」が5.0%→12.5%へ増加しています。「認証保育所」は全体では7.1%→1.4%へ減少しています。

上段：希望	全体 (n=1,208)	父子世帯 (n=4)	母子世帯 (n=58)	共働き世帯 (n=628)	非共働き世帯 (n=489)
下段：現状	全体 (n=737)	父子世帯 (n=4)	母子世帯 (n=37)	共働き世帯 (n=484)	非共働き世帯 (n=198)
幼稚園	32.0	25.0	13.8	11.0	61.6
幼稚園の預かり保育	30.5	25.0	5.4	10.1	85.4
認可保育園	6.1	0.0	5.2	4.8	8.0
認定こども園	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0
小規模な保育施設	41.3	75.0	60.3	62.1	12.5
家庭的保育(保育ママ)	56.5	75.0	81.0	75.8	5.0
事業所内保育施設	11.8	0.0	10.3	13.1	10.2
認証保育所	0.4	0.0	0.0	0.2	0.5
その他の認可外の保育施設	0.5	0.0	0.0	0.6	0.4
学童クラブ	0.5	0.0	0.0	0.6	0.5
一時保育	0.2	0.0	0.0	0.3	0.2
緊急の時の一時的な保育	0.7	0.0	0.0	1.0	0.0
柔軟な働き方の制度が事業所に整備されること	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0
子育てが女性ができるものという固定的な社会通念を変えること	1.4	0.0	3.4	2.2	0.2
出産、育児のため退職した人が仕事に復帰できる再雇用制度が事業所に整備されること	7.1	0.0	8.1	8.7	3.5
配偶者が家事や育児を分担し、協力すること	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4
子育て者に配慮した勤務時間制度などがあり、それが実際に活用できる職場環境	1.2	0.0	0.0	0.6	2.5

小学校就学後の放課後の過ごし方（乳幼児）

○共働き世帯は、低学年時で「学童クラブ」の希望が70.5%ですが、高学年では43.2%へ減少しています。「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」は低学年時で44.6%で、高学年時は70.5%へ増加しています。

○非共働き世帯は、低学年時で「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の希望が73.0%で、高学年では増加し、「その他（図書館、公園、地域プラザなど）」も低学年時の49.9%から増加しています。

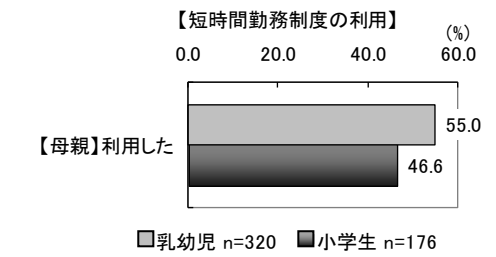
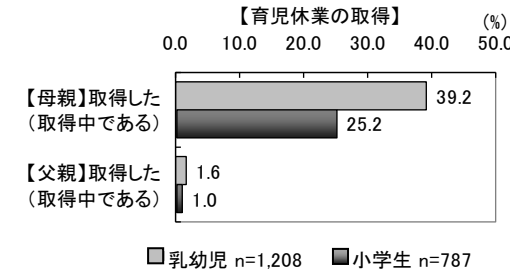
		1位	2位	3位
共働き世帯	低学年	学童クラブ 70.5%	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など) 44.6%	自宅 29.6%
	高学年	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など) 70.5%	自宅 48.7%	学童クラブ 43.2%
非共働き世帯	低学年	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など) 73.0%	自宅 71.2%	その他(図書館、公園、地域プラザなど) 49.9%
	高学年	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など) 82.2%	自宅 64.2%	その他(図書館、公園、地域プラザなど) 53.8%

職業生活と家庭生活の両立（乳幼児・小学生）

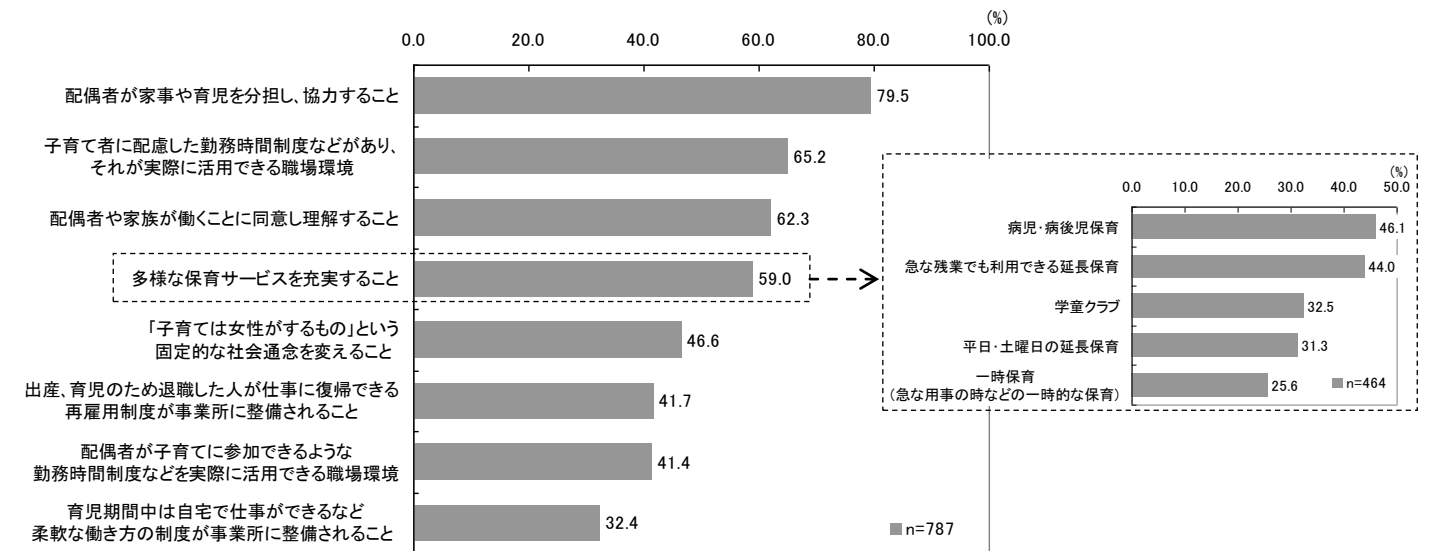
○育児休業を取得したのは乳幼児では母親39.2%、父親1.6%です。小学生では母親25.2%、父親1.0%です。母親は乳幼児で4割近くと小学生の2割を大きく超えています。父親には差がありません。乳幼児の育児休業を取得していない父親の主な理由は「仕事が忙しかった」(42.9%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(35.4%)などです。

○母親が育児休業を取得した後の職場復帰の時期は、「年度初めの保育園入所に合わせたタイミングで復帰した」が75.3%と圧倒的多数でした。

○母親について、育児休業から職場復帰した際、短時間勤務制度を「利用した」は乳幼児で55.0%と小学生(46.6%)を上回っています。



○小学生調査から、子育てと仕事を両立させるために必要なことは、「配偶者が家事や育児を分担し、協力すること」(79.5%)が最も多く、「子育て者に配慮した勤務時間制度などがあり、それが実際に活用できる職場環境」(65.2%)、「配偶者や家族が働くことに同意し理解すること」(62.3%)、「多様な保育サービスを充実すること」(59.0%)などが続きました。「多様な保育サービスを充実すること」を回答した方が具体的なサービスとしてあげるのは、「病児・病後児保育」(46.1%)、「急な残業でも利用できる延長保育」(44.0%)、「学童クラブ」(32.5%)、「平日・土曜日の延長保育」(31.3%)などとなっています。



子育て家庭の状況（乳幼児・小学生）

○子育てについて、乳幼児では「楽しいと感じることの方が多く」が66.1%と、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」(29.3%)を大きく上回っています。「つらいと感じることの方が多く」は2.7%です。平成20年度に行った前回調査（「楽しいと感じることの方が多く」66.9%、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」29.0%）と、ほとんど変化がみられませんでした。小学生では子育てが「楽しいと感じることの方が多く」が59.2%、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」(34.1%)を大きく上回りますが、乳幼児調査よりもその差は小さくなっています。「つらいと感じることの方が多く」は2.2%です。前回調査（「楽しいと感じることの方が多く」62.8%、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」31.6%）と大きな変化はみられません。